

文 化 服 装 学 院  
2018 年度 自己点検・評価  
内部評価委員による報告書

2019 年 7 月 10 日

## 1 教育理念

### ● 1-1 学校の教育理念

#### 1-1-1 文化服装学院の教育理念、人材育成像

- 理念として明記されている人間教育は、教育の場においてことさら注力して取り組まなければならない。
- 人材教育における総体的な方針として「産業人材の育成」を理念としてあげて検討してもよい。

## 2 学校運営

### ● 2-1 法人組織 / 2-2 学校組織

- 教員の評価制度や働き方改革は、採用面において優秀な人材の確保、教育の質保証にかかわる重要な案件であり、誠実で速やかな対応が望まれる。
- 受動喫煙防止が法律として施行された。段階的な手順を経て取り組んでいるが強化が必要である。

### ● 2-3 財務状況

- 人件費の削減は安定的な業務運営と労働負担、教育への影響を優先した計画の下で行うべきである。
- 新入生の増加により収支の改善は見られたが、安定的な収支均衡のためには、「先手を打つ」発想や職員の協力体制を築く必要がある。

### ● 2-4 法令等の遵守

#### 2-4-1 法令遵守・ハラスメント対策の状況

#### 2-4-2 諸規定の制定、学則、細則、内規等の整備

#### 2-4-3 個人情報の保護

- ハラスメントや権利の侵害に関する研修などを通じて、教職員の理解は深まっている。
- 学生対応の場でのハラスメントに関して、全体の意識向上に努めることが重要である。
- 創造の場である本学院にとって「著作権」「肖像権」に関する権利の侵害など、実際に理解すべき学生への浸透を図るため研修を積極的に取り入れたい。
- 「法令の遵守」に関しては意識の浸透を図る取り組みを継続していくことが肝要である。

### ● 2-5 社会貢献等の取組

#### 2-5-1 活動への支援状況

#### 2-5-2 公開講座・教育訓練など

- 学友会（在校生の会）の社会貢献活動（赤い羽根共同募金、サステナビリティ活動など）は継続、新規活動共に積極的に行われている。
- 本学院として学生活動をバックアップし協働できる支援体制と指標を築いていきたい。
- 高校生などを対象とした職業意識向上のための活動に関して改善の余地がある。

### 3 教育環境

#### ● 3-1 施設・設備

##### 3-1-1 教室・講義室・実習室・研究室・事務室の整備、使用状況

##### 3-1-2 機材・備品の管理状況

- 現状に対応する措置としては迅速であると言えるが、先を見据えた計画的な運用がなされているとは言えない。
- 教室・備品に関しては、科ごとではなく全体で合理的に管理し学習環境の改善につなげなければならない。

#### ● 3-2 付属機関・施設

##### 3-2-1 図書館

##### 3-2-2 服飾博物館

##### 3-2-3 ファッションリソースセンター

##### 3-2-4 文化・服装形態機能研究所

##### 3-2-5 国際ファッション産学推進機構

##### 3-2-6 国際交流センター

##### 3-2-7 IT 戦略室

##### 3-2-8 学生支援センター医務室

##### 3-2-9 文化購買事業部

##### 3-2-10 学生食堂

##### 3-2-11 文化北竜館

##### 3-2-12 文化ファッションインキュベーション

##### 3-2-13 学生寮

- 学生寮の実習室改善により、学生の意欲向上につながったことは評価できる。
- 研究を担っている機関の対外的な認知度向上は、研究の質の向上にもつながるため、結果や情報の発信を積極的に行うべきである。
- 各施設が行っている取り組みと評価の視点が「教育の場」に直結しているかどうかが必要である。

- 喫煙に関する健康情報の発信や学生への禁煙サポートなど健康増進法の施行に合わせた取り組みの強化が必要である。

## 4 学修支援

### ● 4-1 キャリア支援

#### 4-1-1 就職活動支援・就職状況

#### 4-1-2 企業開拓・関係強化

#### 4-1-3 キャリア教育

- 学内イベントなどの結果、評価、改善点を具体的に洗い出し次につなげる発想が必要である。
- キャリア教育の授業内容の見直しに関して、学生に有効性を持たせるような内容を早急に決め実行する必要がある。

### ● 4-2 資格取得支援

#### 4-2-1 資格取得率・状況

- 「受験率の向上」「合格率」「検定取得のメリット」の相互関係は恒常的な課題となっている。改めて資格取得に関する方針を検討する必要がある。
- 資格取得を支援するためには、ファッション教育振興協会や企業と連携し資格に対する明確なメリットを打ち出すことが必要である。

### ● 4-3 学生相談体制

- 現代学生の気質や傾向を捉えて分析を行い、先行した対策が取られている。
- 障害学生支援の検討は、今後具体案を示すことができるよう努めて欲しい。

### ● 4-4 経済支援・健康管理

#### 4-4-1 奨学金

#### 4-4-2 健康診断

- 奨学金の拡充は評価できる。総じて経済的な支援体制が整えられている。
- 貸与型奨学金の返還滞納に関する対策強化に成果が見られる。

### ● 4-5 卒業生・社会人への支援

#### 4-5-1 すみれ会（卒業生の会）

#### 4-5-2 再就職・起業支援

- すみれ会奨学金としての学業支援活動、文化祭において本学院卒業生の活躍を紹介す

る企画など、在校生、卒業生に対する支援活動が評価できる。

- ・ 時代に即した広報活動の検証をすすめ、すみれ会の認知度向上と活性化に努めて欲しい。
- ・ 起業支援はインキュベーション（開発室）と関連する他部署が協力し、内外における認知度の向上が先決である。

## 5 教育活動

### ● 5-1 学校のカリキュラム編成

#### 5-1-1 文化服装学院のカリキュラム編成状況

- ・ 本学院内で年度ごとにカリキュラムの点検・見直しを行うことができるシステムが整備されている。
- ・ 取り組み、結果、課題点が明確に記載され、課題の抽出に関して細やかな対応がなされている。

### ● 5-2 課程のカリキュラム編成、授業研究

#### 5-2-1 服飾専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

- ・ 服飾専門課程の特徴が明確に表れている。
- ・ 各科において課題が明確に示され、対策が取られている。
- ・ コラボレーションやコンテストへの参加が、学生のデザイン力、対応力につながっていることが読み取れる。
- ・ 学生の学力差への対応は教育現場の大きな課題であり成果が期待される。

#### 5-2-2 ファッション工科専門課程のカリキュラム編成状況

- ・ アパレル業界の変化に対応し就職を意識したカリキュラム構成に努めている。
- ・ 各科、学年において積極的にコンテストやコラボレーションなどの対外的な活動に参加している。
- ・ 前年度の課題に対しての検証を具体的な活動の推進につなげ、期待する成果を上げている。

#### 5-2-3 ファッション流通専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

- ・ 各コースの特徴に合った課題の設定がなされているが、結果が目標に至っていないとする記述も散見され継続的な取り組みが望まれる。
- ・ ショップスタイリストコースのカリキュラムはコースの特徴に見合った課題の設定と授業研究による対策が生かされている。

#### 5-2-4 ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成状況、授業内容

- 課程全体の共通する課題を各科へ落とし込み、なおかつ成果を上げている。
- 企業とのコラボレーション活動において少人数クラスならではの成果を上げている。

#### 5-2-5-1) II 部服装科のカリキュラム編成状況、授業研究

#### 5-2-5-2) II 部ファッション流通科のカリキュラム編成状況、授業研究

- 各科、II 部（夜間部）の特性を考慮した取り組みを行っている。
- II 部における「授業日の設定」「実習時間の確保」などの問題は、学生の学習成果向上につながるよう検討し、改善に努める必要がある。
- 夜間教育の社会的意義と時勢に見合った在り方を定期的に検証することが必要である。

#### 5-2-6 関連科目の授業研究

- 科目ごとに学生が理解できるよう教授法が工夫されていることがわかる。
- ファッションデザイン画の授業研究に関して、コンテストに選ばれるための方策や授業としての取り組みを検証する必要がある。

### ● 5-3 学外授業

#### 5-3-1 学外授業の状況

#### 5-3-2 インターンシップの状況

#### 5-3-3 海外研修の状況

#### 5-3-4 コラボレーションの状況

#### 5-3-5 コンテスト活動の状況

- インターンシップ受け入れ先の大幅な減少、企業と本学院の目的認識の食い違いに対する振り返りを行い、発展的なものにして行く必要がある。

### ● 5-4 学校行事

#### 5-4-1 行事の状況

- 文化祭に関する活動については状況の改善がみられたが、改善すべき点は多く今後も継続して取り組んで行くべき主要課題である。
- 学校行事全般において、時代性の考慮、学生気質などを念頭に置いた発想から検討を行う必要がある。

### ● 5-5 課外活動

#### 5-5-1 学友会（在校生の会）

- 方針が明確であり学生を主体とした活発な活動が見て取れる。
- 活動を通して学生の社会性などが育まれている。

- すみれ会との交流事業などもお互いの活性化につながると考えられるため積極的に行うとよい。

## ● 5-6 教育・成績評価

- 成績の評価基準などについては整備されているが、実践の中での検証は常に怠らず行う必要がある。
- Web を利用した学生、保護者の成績、出欠席の閲覧、自己管理システムの早期実施を望む。

## ● 5-7 退学者への対策

- 休退学者の動向調査結果を「原因の本質的な理解」「休退学者の減少」「学習環境の改善」につなげる意識が肝要である。
- 留学生の退学後の動向把握について所轄官庁からの指摘に機敏な対応ができなかったことは問題で早急に対策を取る必要がある。

## ● 5-8 学生募集

### 5-8-1 学生募集の状況

### 5-8-2 広報活動

- ファッション特別推薦対象校の拡大などさまざまな取り組みにおいて結果に対する分析ができている。入学者の増加という結果にもつながっている。
- 学校説明会など各イベント参加者のアンケート結果などは有効に活用し、改善につなげる姿勢が必要である。

## ● 5-9 国際交流

### 5-9-1 留学生の受け入れ状況

### 5-9-2 合作校・連携校の状況

### 5-9-3 外部団体・機関との連携

- 担当部署の努めによりオーバーステイが減少したことは評価できる。
- 合作校との取り組みは年月を経て徐々に改善が進んでいるが、すべての課題が解決したわけではなく継続して改善に向けた対話が必要である。
- 留学生の増加に伴って在留管理はコンプライアンス上の大切なことではあるが、学修効果や生活環境を整えるなど前向きな対応にも注力したい。
- 在留管理に偏った課題設定には問題がある。
- 留学の成功においては、日本語の理解、異なる文化への理解と順応が鍵となるため、留学前の意識付けなど事前準備への働きかけも大切である。

文化服装学院 2018 年度  
自己点検・評価 内部評価委員による報告書

自己点検・評価委員会 内部評価会議

開催概要

2019 年 7 月 10 日（水）15：00～16：00

文化服装学院 B 館 4 階 B044 会議室

出席者（敬称略・順不同）

内部評価委員

相原 幸子、野中 慶子

門井 緑、西平 孝子、野原 美香、宮原 勝一、山田 とし子

須藤 久栄、渡井 邦重、吉野 真文

自己点検・評価委員

野沢 彰、薫森 三義、飯塚 有葉

森 裕子、馬島 泰彦

井戸川 倫也、池端 みゆき、宮原 祐紀子、朝生 麻沙美

徳満 真紀、内田 智恵

三枝 みさお

福田 文子、宇都宮 愛

オブザーバー

村田 達也、熊谷 江理、小林 克也

浜田 法子、古澤 直子

以上